

## 地名と歩く



## 六十三 南町



明治時代の牛問屋



折れ曲がった南町通り

高梁市「南町」は北の下町通りから花みずき通り(旧牢屋小路)を隔てて南へと続く町通りで、近世松山城下町六町の一つで、寛文一〇年(一六七〇)水谷勝宗によって取り立てられた町人町の一つでした。今でも当時の町割が残っていて北から南への町筋は、山手側(東側)の風呂屋小路・川手側(西側)の太左衛門小路付近から折れ曲がり南へと町通りが続き、直角に折れ曲がる横町を通り、川に沿ってムクゲの植えられた土手を下る備前往来の町筋でした。南にはムクゲ垣番所(町口番所)と木戸が設けられ、そこには定番が居て城下への出入りを取り締まっていました。その南の端には総門が設けられ、門番が非常時だけ門を閉めていました。(備中松山城及其城下)

「南町」は五町の町の一つ(東町を除く)として地子免の特権を与えられていましたが、南町全域ではありませんでした。池田氏の頃より自然発生的に下町に続いて南へ延びていた風呂屋小路、太左衛門小路付近までの九八間程の町は、間口一間につき米九升の年貢を納めていました。(延享元年

年一七四四)『松山六方町差出帳』市図書館)即ち、現在の町筋の折れ曲がった付近より南の町は、水谷勝宗が産業を奨励するため計画的に取り立て、牛の売買をすすめた「南町」でした。「本町・新町・下町・鍛冶町」往古より無高御免許の地にて御座候ゆえ、一切町方へかかり候の事御座無く候。南町の義右同様。(前掲差出帳)とあって地子が免除されていたのです。そのほか、松山藩の商品作物だった茶の商売は南町だけに限り許しました。延享元年頃の南町の人口は「城下六方町」の内でも多く、九〇五人、そして世帯数二七八軒(増補版高梁市史)でした。南町通りには、東側に三方所の横町があつて東町や原村とつながり、西側には四方所の横町があつて新丁(弓之町)につながっていて、町の長さ五町五九間、往来の幅三間の町だった。(六方町差出帳)と記録されていて、今でも当時の町割を留めているのです。

水谷氏は、「南町」での牛の売買を奨励しました。その後、天和年間(一六八一〜一六八四)に、牛市場が開かれたと伝えられ、その頃は弓之町付近の広場で売買していたといわれ、「差出帳」によると経営取締りは町年寄の中曾屋四郎右衛門が運上を取り立てていました。六軒の間屋株があつて為長一族を中心にした間屋組織がありました。明治になると為長屋の内、問屋には屋号があつて、元為、大上、西為、源七、大下、為長の六軒の牛問屋が町通りに面していて、牛宿も経営しました。問屋には、表に牛を追い込む木戸口があつて、毎月の七日、八日の定期市の前日(六日)に木戸口から牛を追い込み裏の広場につなぎました。博労たちは問屋の裏にあつた二階建の宿に泊り、一階には売り手、二階には買い手が泊り、混じることがないようにして、牛の売買の仲介をしました。市の日には山陰、関西、四国方面からも多くの博労たちがやって来て、南町一帯は人出で大変賑わったのです。時代によつて異なりますが「前掲差出帳」によると、町年寄は牛一疋につき八分四厘、茶一俵につき一分二厘五毛の口銭を取っていました。幕末、明治初め頃までは、町通りの半分を使って牛の売買をしていましたが、通行不便、牛の糞で衛生上問題だとして、人家や井戸から二〇間以内での取引を禁止して、明治七年(一八七四)牛市が停止され、松山村原(現JA)びほく本店付近から南一帯へ市場を移し、昭和の時代まで中国地方唯一の規模を誇る家畜市場として発展したのです。今では当時の問屋や市場の面影も消えてしまい、明治頃の問屋の建物が一軒残るのみとなりました。「南町」には幕末頃の屈指の商家(昔夢一班)の中曾屋、中村屋、為永屋、大坂屋、濱野屋、そして大坂屋の裏にあつた名物の馬鹿倉(阿呆倉)などもなくなり、栄えていた「南町」の姿も消えてしまいました。

この町は、江戸時代から昭和にかけて洪水の被害をたびたび受けました。商売繁盛の恵比寿宮、嘉永五年の棟札が残る正一位稲荷神社、和霊神社、高瀬舟川湊の常夜燈などが残っていて当時の町の繁栄を語ってくれています。「南町」の町名は、下町の南に位置する町人町として付けられた、方角を表わす城下町地名の一つなのです。(文・松前俊洋さん)



## 地域のイベントなど 大学生がお手伝いします

吉備国際大学では、市民と学生との交流を深めることを目的として、サークル(部活動)を中心にボランティア活動や地域の催し物などのお手伝いをしています。今後も市内を中心に、多くの皆さんと交流を深めていきたいと思っています。ご希望があれば、遠慮なくご相談ください。ご連絡をお持ちしています。

また体育系サークルは、数多く全国大会で活躍しています。昨年のユニバーシアード大会(2009)女子サッカーにおいて、本学女子サッカー部監督が日本代表監督に、学生4人が日本代表選手に選出され、銀メダルを獲得しました。硬式野球部は、中国六大学リーグにおいて惜しくも優勝は逃しましたが、準優勝に輝きました。今年も昨年以上に、いろいろな舞台上で活躍できるよう頑張ります。併せて応援をよろしくをお願いします!!

**内容:** イベントでの出し物、地域のボランティア活動、スポーツ教室のお手伝いなど、どのようなことでも構いません。

ただし、市民と学生との交流を目的とした活動としてください。

**サークル:** ☆体育系(サッカー部、野球部、ソフトテニス部、弓道部、アーチェリー部など)

☆文化系(吹奏楽部、手話サークル、ボランティアサークルなど)

■問い合わせ 吉備国際大学学生課(TEL②7420)

### 編集後記

寒い日が続きます。この季節は、各地でマラソンや駅伝の大会が盛んに行われます。1月24日、うかんスポーツ公園では、少年野球チームによる駅伝大会が開かれました。駅伝は、長距離を数人が走って、たすきをリレーしていくスポーツです。「どうとう自分の番がきた。抜かされたらどうしよう」「あとは頼んだぞ!」「よし!任せとけ!」「あのファイナダーを通して、子どもたちの気

持ちが伝わってくるようでした。一人ひとりの努力の積み重ねがチームの成績へとつながる駅伝。駅伝に限らず、スポーツや仕事など、何人かが集まって取り組むものは、同じことが言えるのかもしれない。私たちが公聴広報係も、駅伝で走るように、それぞれが自分の力を出し合って頑張りたいと思います。(TM)

## まちの 伝言板

### ひな 備中吹屋雛まつり



吹屋観光推進実行委員会  
会長 麻田 昌孝さん(70)

「これから暖かくなるので、ぜひ吹屋を訪れてみてください。町並みで見る雛人形は風情があっというものですよ」と麻田さんは話します。

詳細は次のとおり。

▽日時: 3月20日(土)

4月18日(日)

※展示場所が決定次第、パンフレットを作成する予定です

なお、同実行委員会では現在、広兼邸に飾る雛人形を募集しています。提供いただける人は、ご連絡をお願いします。

江戸時代から昭和にかけてベランダで栄えた吹屋を舞台に、今年も「備中吹屋雛まつり」(吹屋観光推進実行委員会主催)が開催されます。吹屋の町並みはもちろん、旧片山邸や西江邸など今年も16カ所前後で飾られる予定です。雛人形や手づくり雛など、各家で代々伝わってきたものが並びます。

■問い合わせ 吹屋観光推進実行委員会会長・麻田昌孝さん(☎②2311)